

# あなたの安心

盗聴、盗撮の被害はどのくらいあるのだろうか。

警察庁も国民生活センターに確認しても統計はなかった。実態はわからないものの、隠し撮りや盗聴は、様々なメディアで取り上げられ、プライバシーの侵害を恐れる人々の不安は膨らむ傾向にあるようだ。

特に、盗聴を疑うようなことがあったわけではない。新築の家を購入する、と上司に報告したところ、「テレビで見ただから調べてもらった方がいいぞ」と忠告されたのがきっかけだ。

調査員はカバンから探査用の機材を取り出した。ヘッドホンをつけ、モニターの波形

件数つかめず膨らむ不安

## 盗聴・盗撮を防ぐ②

をにらみながら黙々と紙に数字を書き込む。その後、アンテナ付きの機器を抱えて家中を歩き回り、怪しい電波がないかどうかを調べた。

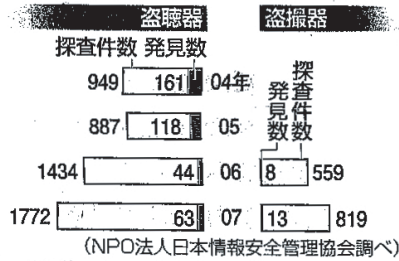
調査開始から約2時間。調査員は「今日の段階では、安心してもらう結構です」と報告した。瀧田さんは「専門の人に確認してもらって安心しました」。ただ、その後も用心は欠かさない。電気工事の関係者を家に入れたときは張り付けてみていたという。

盗聴、盗撮探査業の資格

## 盗聴・盗撮の実態は？

- ① 被害件数の統計なし
- ② 「念のため」の調査増える
- ③ 発見率数%のデータも

探査件数と発見数



「情報安全管理士」を認定するNPO法人日本情報安全管理協会(東京都港区)の佐藤

健次事務局長は「最近、念のため調べて欲しい、という依頼が増えている」という。

協会が盗聴、盗撮の探査業務に携わる会員約100人から得たアンケート結果では、04年の探査依頼は計949件で、盗聴器発見は161個。それが、07年は計1772件の探査で、発見は63個になっている。一方、盗撮に関してはアンケートを始めた06年から559件のうち発見が8個、07年は819件のうち13個となっている。昨年の発見率は盗聴、盗撮ともに数%だ。